

19:1 アハブは、エリヤがしたことと、預言者たちを剣で皆殺しにしたこととの一部始終をイゼベルに告げた。

19:2 すると、イゼベルは使者をエリヤのところに遣わして言った。「もし私が、明日の今ごろまでに、おまえのいのちをあの人たちの一人のいのちのようにしなかったなら、神々がこの私を幾重にも罰せられるように。」

19:3 彼はそれを知って立ち、自分のいのちを救うため立ち去った。ユダのベエル・シェバに来たとき、若い者をそこに残し、

19:4 自分は荒野に、一日の道のりを入れて行った。彼は、エニシダの木の陰に座り、自分の死を願って言った。「【主】よ、もう十分です。私のいのちを取ってください。私は父祖たちにまさっていませんから。」

19:5 彼がエニシダの木の下で横になって眠っていると、見よ、一人の御使いが彼に触れ、「起きて食べなさい」と言った。

19:6 彼が見ると、見よ、彼の頭のところに、焼け石で焼いたパン菓子一つと、水の入った壺があった。彼はそれを食べて飲み、再び横になった。

19:7 【主】の使いがもう一度戻って来て彼に触れ、「起きて食べなさい。旅の道のりはまだ長いのだから」と言った。

19:8 彼は起きて食べ、そして飲んだ。そしてこの食べ物に力を得て、四十日四十夜歩いて、神の山ホレブに着いた。

19:9 彼はそこにある洞穴に入り、そこで一夜を過ごした。すると、【主】のことばが彼にあった。主は「エリヤよ、ここで何をしているのか」と言われた。



19:10 エリヤは答えた。「私は万軍の神、【主】に熱心に仕えました。しかし、イスラエルの子らはあなたとの契約を捨て、あなたの祭壇を壊し、あなたの預言者たちを剣で殺しました。ただ私だけが残りましたが、彼らは私のいのちを取ろうと狙っています。」

人間は本来弱い者で、華々しい活躍をして信仰の勝利で国のききんを救ったエリヤでさえ、神の力なしには心がなえて、祈るよりも逃げる人になってしまいました。私たちが主に依り頼んでいなければ何もできないのだと、自分を謙遜に見る必要があります。

特に信仰の勝利のときにはサタンは必死で攻撃してきますから、エリヤのように主に用いられた後は、心して謙遜に主の力を求める必要があります。

そのようなエリヤではありましたが、主は彼を見捨てたまわず、あたたかい心でパン菓子などを与えてくださり、四十日四十夜歩くまでにしてくださいました。

主は私たちに使命を与えて、放っておかれる方ではありません。それは大きな意味の有る使命で、必ず勝利を与えてくださり、また辛いときや弱くなったときは、やさしくいやしを与えてくださる方なのです。

何もしないで恵ばかり求めている人よりも、主の使命に生きる人の方が、主の愛に感謝できるのはそのためです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

